

邑楽町農地利用最適化推進委員の推薦・応募状況(中間公表)

No.	推薦・応募の別		推薦・応募の区域	候補者							推薦をする者			推薦・応募の理由	
	推薦	応募		氏名 職業 年齢 性別				経歴		営農類型	農業經營状況	法人又は団体	個人		
				名称	代表者	代表者氏名									
1	○		第1区域	小林 俊三	農業	73	男	昭和50年より農業に従事		米麦	経営面積 140,000m ² 農業従事日数 200日/年間			小島 靖	農業従事者として経験が豊富である。
2	○		第3区域	小林 伸幸	農業	62	男	・昭和57年 東京三洋電機 入社 ・平成27年 パナソニックA・P空調 転籍 ・令和7年 農業經營を引き継ぎ、兼業農家として活動		米	経営面積 9,600m ² 農業従事日数 180日/週			小島 郁志	長く地元の大手企業に勤務され、定年後もシニアスタッフとして後進の指導や管理等で勤務を続けられていますが、家業である米作りを若いときから手伝い、農業の知識・経験とも豊富です。性格的にも温厚で真面目であり、責任感があります。以上より、期待される職務を十分に果たせる方と考えますので、推薦します。
3	○		第4区域	岩永 榮一	農業	70	男	・昭和55年3月 日本大学理工学部土木工学科卒 ・平成22年3月 会社代表取締役専務 退職		稻、野菜	経営面積 4,000m ² 農業従事日数 300日/年間			相場 利夫	温厚で責任感が強く、地域の指導者としての資質を有している。また、積極的に地域活動に取り組み、地域の和に尽力している。当該候補者としてふさわしい。
4	○		第5区域	神谷 賢二	造園業	70	男	造園業、農業		米麦	経営面積 24,917m ² 農業従事日数 200日/年間			福島 武	現在も農業に従事している。地域の農業事情に精通している。地域の田畠の地理、農地利用に関する深い知識と豊富な経験を持っている。
5	○		第7区域	吉田 享史	農業	59	男	・平成2年 東京農業大学卒業 ・平成3年 邑楽町役場入職 ・令和6年 農業専従		米、麦	経営面積 35,048m ² 農業従事日数 250日/年間			石井 武	町役場を退職後、農業に従事し温厚な性格と強い責任感で、地域の中心的な存在として活躍されている。また、役場での勤務では農業振興業務に携わっていたこともあり、地域の農業情勢の知識と関心を持っており、農地等の利用最適化の推進に係る活動ができる人材として期待できる。
6	○		第8区域	山崎 昭弘	農業	70	男	会社員として25年勤務した後、約21年米麦を中心に農業經營をしている		米麦	経営面積 30,000m ² 農業従事日数 180日/年間			藤田 義人	渋沼、住谷崎での協議の結果、6年間、邑楽町の農地利用最適化推進委員として活動し、農業の発展向上、活性化に努めた。また、地域の共存共栄を成すため、尽力されている。農事組合法人の山崎昭弘を推薦致します。
7	○		第9区域	須永 幸宏	農業	53	男	・平成5年3月 太田情報商科専門学校卒業 ・平成5年4月 (株)三共エクセル入社 ・令和4年7月 (株)三共エクセル退社		米麦	経営面積 50,000m ² 農業従事日数 280日/年間			藤田 節子	先代の父親が長年農業に従事してきたが、高齢になり後を継ぐため、会社を辞め一緒にやりながら今ではほとんど自分でやれるようになっている。真面目にコツコツと従事していることから適任と思われます。
8	○		第11区域	吉田 一郎	農業	55	男	大泉高校卒業後就農		米	経営面積 47,000m ² 農業従事日数 180日/年間			斎藤 吉重	農業に意欲があり真面目に取り組んでいる。

9	○	第14区域	栗原 一幸	農業	69	男	・昭和47年4月 日産サニ一群馬販売(株) 入社 ・平成2年3月 (株)レンタルのニッケン 入社 ・50歳から兼業農家、会社退職後は農業で現在に至る	米麦	経営面積 12,600m ² 農業従事日数 120日/年間			三ツ村 有次	28区土木委員の重責を担っている。その仕事ぶりは極めて誠実で緻密であり、地区住民の信頼も厚い。農業問題への関心も深く「邑楽町農地利用最適化推進委員候補者」として最適である。
10	○	第15区域	横山 英則	農業	47	男	高校卒業後民間企業に就職 22歳から家業である農業に従事し現在に至る	米麦、サトイモ、白菜、キャベツ等	経営面積 95,000m ² 農業従事日数 300日/年間			山根 一浩	22歳で就農後、現在までの20年間以上家業である農業に従事していることから、地域の農業に精通している。温厚実直な性格であり、地域の有望な青年農業者として活躍している。今後の地域農業の発展に向け、若手農業者のリーダーとなるべき存在であることから、委員としての業務においても貢献できると思われるため、農地利用最適化推進委員として強く推薦するものです。